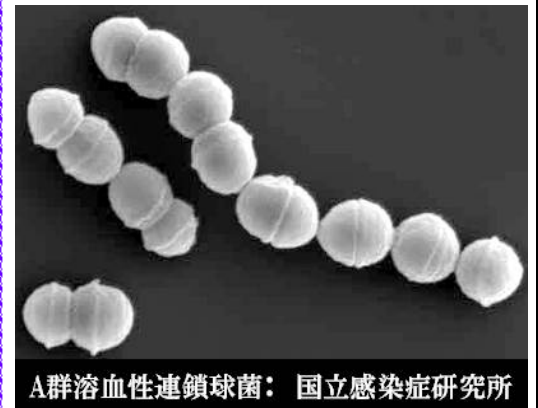


人食いバクテリア

細菌が筋肉にとりついて、数日のうちに命が奪われる「人食いバクテリア」の患者数が急激に増えています。今年8月中旬迄の患者数は284人となっていて、その年齢層は50から60代がピークです。発症には、免疫力の低下が最大の原因です。日頃よりストレスや疲労を蓄積させず、免疫力を維持させておくことが大切です。

「人食いバクテリア」とは、劇症型溶血性連鎖球菌による感染症です。主にA型溶血性連鎖球菌によって引き起こされます。この感染症は突発的に発症して、急激に多臓器不全に陥って、敗血症ショックによって重篤な症状を発症することより、センセーショナルな病名がつけられました。その症状は、四肢の疼痛から始まって、数十時間内に手足の壊死、それに伴ってのショック、多臓器不全を併発することによって死に至らせしめることとなります。死亡率は30%とされていて、各種、細菌感染症のなかでも最も高率です。国立感染症研究所によると、通常のア型連鎖球菌の毒素を産生している遺伝子に変異を起こして、毒素産生量を高めたともしています。



A群溶血性連鎖球菌：国立感染症研究所

「人食いバクテリア」の詳細！

劇症型溶血性連鎖球菌感染症は、1980年の中旬に米国で最初に報告されて、それに続いてアジアやヨーロッパでも報告されるようになりました。我が国での典型的な症状は、1992年に報告されました。

一般的に連鎖球菌は人の鼻や口などの粘膜から感染して咽頭炎や皮膚の感染で済むものが多いのですが、このA型溶血性連鎖球菌は劇症化しやすい性質があり、菌が粘膜や傷口から侵入すると急激に手足の筋肉が壊死して、錯乱状態となって、多臓器不全によるショック状態を引き起こして、死に至っています。

経口感染は、海産魚介類に付着して、刺身や過熱不足の料理を食べて感染する場合と、皮膚に傷のある人が河口近くの海に入って、傷口から感染する場合があります。

しかし、人から人への感染はありません。



注意が必要なのは、どんな人！

◆**肝臓疾患や免疫力の低下など、基礎疾患のある人や、貧血の治療で鉄剤を服用している人**
肝臓疾患、免疫力などの基礎疾患をもっている人や鉄剤を服用している人は、重症化しやすくなります。この時の初期症状は発熱と激しい痛みで、殆どの患者で皮疹が発症します。

◆**肝硬変などの肝臓に基礎疾患のある人**

肝硬変や肝臓の基礎疾患のある人では、敗血症を引き起こしやすく、敗血症を起こすと極めて死亡率が高く、50～80%となることが報告されています。

◆**肝臓疾患や免疫力の低下の人などは、どんなことに注意をすれば良いのでしょうか**

特に夏場の時期での魚介類の生食は避けて、適切な温度で加熱処理した食材を摂取することが大切です。「人食いバクテリア」は、腸管出血性大腸菌 O157 を殺傷するのと同程度の中心温度が70℃で1分間、100℃であれば数秒間で死滅させることができます。

◆**妊婦**

厚生省研究班の調査によりますと、妊婦がこの病気に罹ると発病から1日以内に死亡する例が相次いでいることがわかっています。これまでに14人が確認されていますが、その内の命が助かったのは1人だけで、妊婦は通常より進行が速く、治療が間に合わないためです。

「人食いバクテリア」の感染予防のために

ハイリスクの人は菌が発生し易い季節(5月～11月、特に7～9月)に刺身などの生食を避け、よく加熱することが重要です。また、ハイリスクの人で手に傷のある場合は、生の魚介類の調理を避けた方が良いでしょう。調理する人は、A型溶血性連鎖球菌で汚染された包丁やまな板などの調理器具を良く消毒して、二次汚染がおこることの無いよう心掛けることが大切です。やはりこの場合も、日頃の疲れを残さず基礎体力を維持して、免疫力を発揮させることができる体を維持させておくことが、感染予防の基本となります。

‘百の治療より
一つの予防’

お元気ですか！

たまご薬局グループ

長岡市曙3-4-16

TEL0258-36-5226